日本歯周病学会第27回歯科衛生士教育講演会の報告

特定非営利活動法人日本歯周病学会歯科衛生士教育講演Ｂを以下のように開催致しました。

研修会名：日本歯周病学会歯科衛生士教育講演Ｂ
（社団法人日本歯科衛生士会第３次生涯研修）

主　　催：特定非営利活動法人　日本歯周病学会（歯科衛生士関連委員会）

共　　催：社団法人　鹿児島県歯科医師会

日　　時：平成22年９月12日（日）　9：30～12：30

場　　所：鹿児島県歯科医師会館　５階ホール（鹿児島市照国町13-15　TEL 099-226-5291）

講演内容および講師：
演　　題：①『SPTとメインテナンスの違いについて～歯周病と全身疾患との関連～』
②『歯周治療におけるSPTとメインテナンスの実際』

講　　師：①日本歯周病学会歯科衛生士関連委員会　委員
日本歯科大学東京短期大学　歯科衛生学科　准教授　野村正子
②日本歯周病学会歯科衛生士関連委員会　委員
平野歯科医院院長（平塚市開業）　平野治朗

日　　程：第一部　9：30～11：00
開会の挨拶　鹿児島県歯科衛生士会　会長　宮脇恵美子
9：30～10：30『SPTとメインテナンスの違いについて～歯周病と全身疾患との関連～』
10：30～11：00『認定歯科衛生士によるプレゼンテーション』
日本歯周病学会認定歯科衛生士　松田恵子（枕崎市）
日本歯周病学会認定歯科衛生士　下田平貴子（鹿児島市）

第二部　11：15～12：30
11：15～12：20『歯周治療におけるSPTとメインテナンスの実際』
12：20～12：30『Ｑ＆Ａ』
閉会の挨拶　鹿児島県歯科衛生士会　副会長　川床裕子

研修単位：(1)(2)の両方に該当する場合は，(1)(2)それぞれの単位取得が可能
(1) 日本歯周病学会会員の場合
・認定歯科衛生士制度における
申請時の教育研修単位：８単位
更新時の生涯研修単位：10単位

(2) 日本歯科衛生士会会員の場合
・第３次生涯研修制度に基づく専門研修単位
Ⅳ－Ｆ SPTとメインテナンスの実際：３単位

内　　容：　受講生は，153名の歯科衛生士及び歯科衛生士学校学生であった(内，日本歯周病学会認定歯科衛生士は8名)。

日本歯科衛生士会の第3次生涯研修制度にある項目内容から，鹿児島県歯科衛生士会と話し合いの上，講演は「SPTとメインテナンス」を主軸とした。

第一部では，まず，SPTとメインテナンスの定義を，病状安定と治癒と対比して説明した。さらに，全身疾患をもつ歯周病患者について，症例を挙げて講演した。

続いて，鹿児島県内在住の日本歯周病学会認定歯科衛生士である松田恵子(かわばた歯科医院)と下田平貴子(鹿児島大学医学部・歯学部附属病院)によるケースプレゼンテーションが行われた。

第二部では，日本歯周病学会研修施設における20年以上にわたる長期症例において，歯科衛生士がSPTやメインテナンスで実際どのように関わってきたかを，重度慢性歯周炎，侵襲性歯周炎，非外科処置症例などの臨床例を軸に講演した。

その後，質疑応答を行い，終了した。

感　　想：　認定歯科衛生士の少ない県での歯科衛生士教育講演開催を目的として，鹿児島県歯科衛生士会に共催をお願いした講演会だったが，鹿児島県内のみならず，宮崎県や熊本県の歯科衛生士会会員も参加しており，日本歯周病学会による歯科衛生士教育講演の周知が進んでいると感じた。男性の歯科衛生士学校の学生も熱心に受講している姿は，女性の歯科衛生士への刺激にもなったと感じる。

今回の講演会では県内の2人の認定歯科衛生士のケースプレゼンテーションを行ったが，松田歯科衛生士からは優れた症例報告のみならず，認定取得のためにパソコンでの資料整理やスライド作成作業に悪戦苦闘した実例などの報告もあり，受講者からの共感を得た。さらに，下田平歯科衛生士からは，大学附属病院の歯科衛生士として，多くの全身疾患の既往歴を持つ患者症例が報告され「歯周医学―ペリオドンタル・メディシン」のキーワードとともに関心を集めた。地元認定歯科衛生士のケースプレゼンテーションは，地元の後進歯科衛生士の育成にもつながるであろう。

講演後のアンケート結果からは，「SPTとメインテナンスの違いがよくわかった」についてはこの講演会の主旨として当然のことながら，「患者さんの全身的な面も考慮し，日々気をつけていこうと考えた」，「症例発表をするにあたり，スライドの作り方やどういった資料あつめをすればよいかの参考になった」などが感想として多く寄せられた。少数だが「今回の講演会で歯周治療の大切さ，歯科衛生士としてのやりがいを感じることができた」や「今後の自分の仕事に対する意識をもう少し考えさせられました」など，歯科衛生士としての根源的な認識も得られたことは収穫だった。

今後，日本歯周病学会認定歯科衛生士を取得したいと希望する者は，15名であった。

以上

文責　日本歯周病学会　歯科衛生士関連委員会　委員　野村正子，平野　治朗

演者と鹿児島県歯科衛生士会幹部

テクニカルターム（専門用語）の確認
歯肉病変
1 プラーク性歯肉炎
2 非プラーク性歯肉病変
3 歯肉増殖
歯周炎
1 慢性歯周炎
2 侵襲性歯周炎
3 遺伝疾患に伴う歯周炎

講演中の会場風景